

ミネアポリス美術館蔵「群鶴図屏風」の高精細複製品を兵庫県立歴史博物館に寄贈 綴プロジェクトで石田幽汀ゆかりの地への里帰りを実現

キヤノン株式会社（以下、キヤノン）と特定非営利活動法人 京都文化協会（以下、京都文化協会）は、「綴プロジェクト」（正式名称：文化財未来継承プロジェクト）の第18期作品として制作した、米国ミネアポリス美術館蔵「群鶴図屏風」（石田幽汀筆）の高精細複製品を、兵庫県立歴史博物館へ寄贈します。寄贈作品は、2026年2月25日（水）から5月6日（水）まで館内の一般開放エリアで展示されます。



「群鶴図屏風」高精細複製品

Minneapolis Institute of Art, Mary Griggs Burke Collection, Gift of the Mary and Jackson Burke Foundation 2015.79.73.1-2

■ 「群鶴図屏風」の高精細複製品をキヤノンのイメージング技術と京都伝統工芸の技の融合により制作

「群鶴図屏風」は、金地を背景に、右隻・左隻を通して三十六羽の鶴の群れが描かれた作品です。タンチョウ、マナヅル、ナベヅルなど複数の種類の鶴が描き分けられ、さまざまな姿態をとる鶴たちが、変化とリズムのある構成を生み出しています。作者である石田幽汀は、播州明石郡（現在の兵庫県明石市）に生まれ、江戸時代中期に活躍した鶴沢派（狩野派の一派）の絵師です。写実性と装飾性を兼ね備えた画風が特徴であり、本作にもその特徴がよく表れています。

原本は米国ミネアポリス美術館に所蔵されており、日本での鑑賞の機会は極めて限られています。このたび、高精細複製品の制作により、幽汀の故郷である兵庫への里帰りが実現しました。寄贈先の兵庫県立歴史博物館（兵庫県姫路市）は、兵庫県ゆかりの美術品を多数所蔵し、県内の歴史文化の保存・発信拠点となっています。

高精細複製品の制作にあたっては、キヤノンのフルサイズミラーレスカメラでオリジナルの文化財を撮影し、独自開発のカラーマッチングシステムを用いた画像処理を行った上で、12色の顔料インクを搭載した大判インクジェットプリンターで出力しています。さらに、京都の伝統工芸士が金箔などを用いた装飾を施し、屏風に仕立てることで、オリジナルの文化財を限りなく忠実に再現しています。

■ 兵庫県立歴史博物館にて寄贈作品を展示

寄贈作品は、2026年2月25日（水）から5月6日（水）まで、兵庫県立歴史博物館の1階ロビーにて展示されます。この展示では、ガラスケース無しで間近での鑑賞や写真撮影を楽しむことができます。また、期間中には、兵庫県立歴史博物館が所蔵する石田幽汀の作品「四季風俗図屏風」も、「美術とくらし」エリア※（観覧無料）にて展示されます。寄贈作品は、その後も同館での式典やイベント、教育普及事業などでの活用が予定されています。

※ 開館時間や展示場所の詳細については、兵庫県立歴史博物館のホームページをご覧ください。（<https://rekihaku.pref.hyogo.lg.jp/>）

- 京都文化協会ホームページ : kyo-bunka.or.jp
- キヤノン「綴プロジェクト」ホームページ : global.canon/ja/tsuzuri/

〈「綴プロジェクト」について〉

「綴プロジェクト」は、キヤノンと京都文化協会が 2007 年より共同で推進している文化支援活動です。日本古来の貴重な文化財には、歴史の中で海外に渡った作品や国宝として大切に保管されている作品など、鑑賞の機会が限られているものが多くあります。「綴プロジェクト」では、キヤノンの入力、画像処理、出力に至るイメージング技術と、京都伝統工芸の匠（たくみ）の技との融合により、オリジナルの文化財を忠実に再現した高精細複製品を制作しています。制作した高精細複製品は、文化財にゆかりのある社寺や自治体、博物館などへ寄贈し、寄贈先での一般公開や学校教育の現場など、さまざまな場面で活用されています。これまでに、葛飾北斎や俵屋宗達、尾形光琳の作品など、60 作品を超える高精細複製品を制作しました。

詳細は、「綴プロジェクト」のホームページをご参照ください。 <https://global.canon/ja/tsuzuri/>